

190

こんにちは。塾長の大井です。

夏講の忙しさに追われて、すっかり更新が途絶えてしまっていました。

すみません。またぼちぼち書いていこうと思います。

いよいよ後期に入ってきました。

小6は他塾模試に挑み、合否の可能性も示されるようになります。今日はその「合格力」について語りたいと思います。

高校受験であれば、合格に必要なものはかなりシンプルです。

明確な目標を定め、安定した得点力を育てれば合格は可能です。

もちろん中学受験でもこの2つは重要ですが、そこに至るまでのプロセスが高校受験とは大きく異なります。

前者はある程度自分を客観視できるようになり、現実と目標との距離感も分かってきます。

しかし後者は、なんとなく始まり、なんとなくやっているというお子さんも決して少なくはありません。(そして多くの場合、そういう受験は何となく終わってしまします。)

場合によっては、合格さえすればいい、将来のためイヤイヤがんばると

いう受験もあるかもしれません。

しかし TOP では、今この瞬間を大切にすること、学ぶことそのものの中に大きな喜びがあることを伝え続けています。

その喜びはこれまでも書いてきた通り、導かれるものであっても、与えられるものではなく、勝ちとっていくものです。

そして、その自主性や主体性の有無が、中学受験の価値を大きく変容させることになります。

TOP で子供たちに、中学受験はかけ算なんだとよく話します。

まず得点力を磨くのは、授業で考え理解することと、解き直しで定着させることのかけ算が不可欠です。

特に合格する生徒に共通するのが、この2点を高い次元で兼ね備えていることです。

TOP では必ず全員が理解できる解説で導いていきますが、その後の得点力は解き直しの質がものを言います。

これは何も持って生まれた力で決まるものでなく、地道な訓練によって獲得していくことが可能です。

そして次に、合格力を育むのは、自分の受かりたい想いと担当の受から

せたい情熱(技術)のかけ算です。

だからこそ、その想いが切実に結びついた時、偏差値や元々の能力を超えた結果を生み出し、生涯の財産になり得るのです。

中学受験の難しさも、奥深さも正にここに 있습니다。

TOP で受験道を歩むにあたって、この受からせる力には大船に乗ったつもりでお任せいただきたいと思います。

そして同時に、受かりたい想い、学ぶことに懸ける想いは、お子さん一人ひとりが大切に育ててほしいと願っています。

ありったけを注ぐ「今」だけが、積み重ねて未来を拓くと信じて。

2018年8月27日

大井雄之